

「三木市スポーツ振興計画」(案)に対する意見の概要 及び意見に対する教育委員会の考え方

意見募集期間 令和3年12月24日(金)～令和4年1月28日(金)
意見提出者数 3人(5件)

1 策定の位置づけ・計画期間

【意見】

(1)	1-1 【国・県の政策との整合性】
	今回の三木市スポーツ振興計画(案)は、2025年までの5年間の計画として策定予定ですが、国・県のスポーツ政策と整合性を持たせるということであれば不十分ではないかとの印象です。

【教育委員会の考え方】

本計画は、令和3年2月に策定し、令和7(2025)年度までの5年間を計画期間とする「第3期三木市教育振興基本計画」を上位計画としたスポーツ振興に関する分野別計画として位置づけており、国・県の計画を参酌し、本市の実態に即した指針として策定します。

2 情報発信

【意見】

(1)	2-1 【アスリートに関する情報発信】
	今後の取組方針として挙げられている「トップレベルのスポーツにふれる機会やアスリートの育成・支援、市民が一体となって、誰もが、いつでも、どこでも、気軽に「する」「観る」「支える」ことができるスポーツの実現を図り、わかりやすい情報発信に努めていきます。」について、「わかりやすい情報発信」とは発信者と受け手の間にある壁を乗り越えるための情報表現の工夫にすぎないので、以下のとおり提案します。 オリンピック出場選手をパブリックビューイングでそのときだけ応援するのではなく、日頃から市民が関心を持てるよう三木市に関係のあるアスリート情報を発信します。 <方法>三木市のホームページに専用コンテンツを作成する、あるいはスマホ用アプリを開発し、神戸新聞社やデーリースポーツ社から三木市に関係するアスリートの記事配信を受け情報発信を行う。 <内容>三木市出身のプロ野球選手(や関西国際大学出身のプロ野球選手)をはじめ、アマチュア選手(元日の全日本実業団対抗駅伝でエース区を走ったマツダの延藤潤さんや、1月3日のライスボウルで対戦したチームに三木高校出身の選手が所属しています。富士通の田中彰人選手、パナソニックの藤本拓弥選手)や、市内学校の運動部の選手やチームに関する情報。

【教育委員会の考え方】

顕著な成績を挙げられたアスリートに関する情報発信は、これまでも懸垂幕や幟(のぼり)の設置、市広報誌による広報に努めています。また、より効果的な情報発信については、本計画の策定に当たり実施した市民調査も踏まえつつ研究していきたいと考えています。

【意見】

2-2 【アクセスしやすい情報の整備】

広報誌は現状を鑑み残すとしても、専用ウェブサイトの開設を望みます。

- (1) 市の施設や利用方法もちろんですが、「どこで」「どんなスポーツを」「誰が・どんなチームがやっているのか」「どうすれば参加や問い合わせができるのか」など、情報へのアクセスだけでなく、その先（例えばチーム）にアクセスできる情報が欲しいです。

あるいは、運動してみたいと思っても、大きな施設やチームに入るのは抵抗がある方もいます。そんなケースに、個人でも楽しめる、運動できる環境や設備などの情報もあると良いと感じます。人数や種目、目的などに応じて情報を検索できるようなシステムの構築を望みます。

【教育委員会の考え方】

市内の有料スポーツ施設を始め、体育協会やスポーツクラブ21等の団体の情報については、市のホームページに掲載しています。また、地域で活動する団体については、各市立公民館のホームページにサークル案内として情報を公開しています。今後は、情報をより検索しやすい仕組みづくりについて、関係課と協力しながら研究していきます。

3 スポーツの推進及び健康増進

【意見】

3-1 【専門機関との連携・人材育成】

動きましょう、取り組みましょう。それは良いのですが、身体や健康に対するチェック機構やサポート体制が弱い印象です。他の市町村に比べてメディカルチェックの体制などはあるのでしょうか？

- (1) スポーツ障害予防の観点も考える必要がある一方、医療機関などとの連携が難しい事も承知しています。場合によっては、他市あるいは他市でそういった活動をしているグループとの連携も必要かもしれません。また、チェックとは異なり、コンディショニングに関する指導環境はあるのでしょうか？「指導者の育成に力を入れる」とはよく聞く言葉ですが、身体の仕組みや状態に沿わず、しかも適切なケアもせず競技別のフォーム指導や断片的なトレーニングなどが散見されます。本来のパフォーマンスが発揮できず、ケガの原因になることもあります。日体協の関係でも、例えばスポーツ21の指導者用研修などで得る知識や対処方法には限りがあります。

年齢問わず、できれば神経学的な発達豊かな学生時代に、身体の仕組みや動きのメカニズムを基に指導できる人材育成にも検討がなされることを願います。そして、国レベルの話ですが、学校教育における姿勢指導や体育の指導方法が見直されることを願います。県内の他市での相談事例ですが、こけて手をつけない子供は年々増え、雑巾がけですら前腕を骨折する子供がいる。組体操の議論以前の状態であり、さらに幼少期の運動習慣と保護者の指導も急務な印象です。

【教育委員会の考え方】

スポーツ医学に基づく指導の重要性は認識しています。関連機関との連携や普及啓発に向けた課題について、研究していきたいと考えています。

【意見】

3-2 【地域スポーツクラブの活性化】

- (1) 地域スポーツクラブについては、小学校区から中学校区に基本単位を移してでも活性化を図る方向で動いていると思いますし、生涯スポーツの推進としての子どものスポーツの推進についても学校部活から社会体育への移行が教員の働き方改革と合わせて方針化されているとも思います。国・県との整合性を図る必要があると考えます。

【教育委員会の考え方】

文部科学省「学校の働き方計画を踏まえた部活動の改革について」では、令和5年度以降に休日の部活動の段階的な地域移行を行う方向性が示されていますが、本市においても担当課と調整中であり、その方向性・取組については現在未定となっています。また、児童や生徒が身近な地域でスポーツを親しめる更なる環境の整備に向けて、地域や学校・関係機関との連携を図りながら地域ごとに検討し、対応していくことが必要であると考えています。